

回復期リハビリテーション病棟の専門職の役割と連携 —PTの立場から—

松浦道子

わかくさ竜間リハビリテーション病院

Key Words : PT, 回復期リハ病棟, 連携

1. はじめに

当院は500床の療養病床で、うち2病棟96床の回復期リハ病棟を有している。チーム医療を構成する主な職種は、医師、歯科医師、看護師、介護福祉士、PT、OT、ST、社会福祉士、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師である。

厚生労働省のワーキンググループにおける、回復期・慢性期医療の場面におけるチーム医療のあり方として、①関係職種間の情報共有、②チームとしての共通目標、③家族の参加、④専門職種が互いに尊重しあうことなどを挙げている。今回はこれを踏まえ、理学療法士の役割と連携について、当院での活動報告を中心に述べる。

2. 回復期リハ病棟でのPTの役割

回復期リハ病棟では、各専門職がチームで医療を提供するため、その専門性を十分発揮することが重要である。PTの役割は、身体機能と基本動作能力を詳細に評価し、適切な予後予測のもとに到達目標を提案、物理療法、運動療法、動作練習を用いて能力向上を図ることである。身体機能を最大限向上し、今後の生活におけるADLやAPDLの改善につながる基本動作能力の向上を目指すことが大切である。

PTとして、当たり前のことをきちんと行うこ

とが第一である。そして適切な動作を生活場面で行えるようになるためには、様々な連携が必要となる。

3. 多職種との連携

(1) 院内連携

多職種間の情報共有、チームとしての共通目標決定の場は、カンファレンスである。当院では入院時に合同評価を行い、カンファレンスは一カ月毎に各担当者が集合して実施している。ここでPTが提案した目標は、チーム目標の基盤にもなっている。

更に日々の情報共有としては、看護師や介護福祉士とPT・OT・STの代表者が、情報交換のために毎朝のミーティングや、生活環境・方法共有のために週一回のウォーキングカンファレンスを実施している。

これらの場でPTは、その時の身体機能を踏まえ、動作能力を向上するために必要な生活方法を提案、実施時の注意点などを伝達する。そして、看護師・介護福祉士の支援により24時間、適切な方法での寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、立位、移乗、歩行を含んだ生活を行うことで、日常生活活動の向上につながる。実施した結果や夜間の様子などのフィードバックにより、適宜方法を修正することも大切である。

また、必要に応じて家族への動作介助指導も行っており、能力変化の共有や、退院後の生活に繋がっている。

(2) 院外連携

回復期は、急性期と維持期双方の関連機関と連携をとる必要がある。急性期施設からの情報提供は書面によるものが中心になるが、必要に応じて入院予約の段階でPT・OT・ST・社会福祉士が急性期施設を訪問している。また、回復期リハビリ病棟退院の際には、紹介元の急性期施設へも報告書を送っている。

維持期との連携においては、リハビリ経過や退院後生活の工夫についてなど、担当介護支援専門員や訪問リハビリスタッフ、生活施設職員へ紹介状を作成する。また必要に応じて入院中から面談や電話にて情報共有を行うことで、退院後の生活へスムーズな移行を図っている。

4. 多職種との連携における課題

課題のひとつは、365日リハビリを行うため交代勤務となり、多職種の各担当者同士が情報共有を行いきにくいことである。また、一人の患者に複数のPTがリハビリを実施するため、同職種間での連携が不十分だと適切な治療効果が得られないことがある。

次に、経験の浅いPT・OT・STが増えており、社会人として求められる基本的なコミュニケーションが行えず、適切な連携をとれない場面も見受けられる。また、これらの若いスタッフは専門技術が未熟であるため、質を担保するための教育は大きな課題である。

そしてこれらの連携や教育を充実する際には、業務の効率化という課題がある。

5. 課題を克服するための工夫点の紹介

情報共有に関しては、色々なツールを用いて工夫を行ってきた。しかしツールが多すぎると業務が煩雑になるため、情報の一元化に取り組んでいる。またリハビリ部門の管理体制を変更し、病棟単位でPT・OT・STを1ユニットとした。これにより関わる職員が限定され、密なコミュニケーションを取りやすくなっている。

教育については現在多くの病院において様々な教育研修体制を実施しており、当院でも段階的な目標設定によるキャリアビジョンを示し、PT・OT・STの教育体制を構築した。初期教育では専門職としての基礎を築き、独り立ちできることを目指す。中期教育では同職種・多職種チーム内でのリーダーシップ発揮を目指し、後期教育では、研究活動など各職域での専門性を追求する。またこれとは別に、志あるものについてはマネジメントコースも設けている。

コミュニケーションを含めた初期教育は、現場教育という手法で、その場で具体的な指摘や模範を示すことが重要と感じている。

6. まとめ

回復期は患者の能力を最大限回復する大変重要な時期であり、身体機能向上を担うPTの責任は大きい。またこれはPTのみで改善できるものでもなく、連携は重要となる。そして経験や能力に応じて、教育や管理業務へとPTの役割の幅が広がってきている。

7. 引用文献

- 1) 木野田典保：回復期リハビリテーションのチーム医療と理学療法士，PTジャーナル45：927 - 935，2011